

NBF

公益財団法人 日本舞踊振興財団

Information

No. 51

2017 NEW YEAR

目次

- ◆名手訪問／対談 吉住 健一氏(新宿区長)
- ◆講演会／「女優としての表現に活かされている日本舞踊」
－芸能界のお楽しみトークも－ 名取 裕子
- ◆日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る②⑦
東京大学文学部 教授 古井戸 秀夫
- ◆五耀會の舞踊家によるインドでのワークショップ事業
- ◆特別会員芳名
- ◆NBF活動報告・行事予定・編集後記

名手訪問

《対 談》

●吉住 健一（新宿区長）

●西川 扇藏（公益財団法人日本舞踊振興財団理事長）

[敬称略]



（於：新宿区役所 第一応接室）

西川 区長は政策として、1「暮らしやすさ1番の新宿」、2「新宿の高度防災都市化と安全安心の強化」、3「賑わい都市・新宿の創造」、4「健全な区財政の確立」、5「好感度1番の区役所」という5つを挙げられています。その中で私たち日本舞踊振興財団ということで文化に重きをおいて質問をさせて頂きたいと思っています。

まず、今まさに建替えを行っている国立競技場は新宿区にあります。オリンピックに向けて、新宿区としてどのような取り組みを今現在行っているのか、またこれからどのようなことを行っていくのかを伺えればと思います。

吉住 新国立競技場で行われるのは開会式と閉会式、それから陸上競技、あとはマラ

ソンのゴール地点になるか否かです。それ以外に使われる予定は新宿区内にはないというのが実状です。そのことについては組織委員会が決定していくことになります。ただせっかくこの新宿の地でオリンピックの開会式や閉会式、陸上競技も行われますし、またパラリンピックもあります。リオでもパラリンピックは観客が少なかったという話を聞いておりますので、新宿はそういった方々が努力をしている姿に報いる、そういうまちでありたいと思っています。練習会場についても最終的に競技場が決まって、その後、競技場に近い所でどういう競技の練習場が必要になるのか、という議論が始まります。今のところ組織委員会からのスケジュールでは来年の夏にはどこの会場を使いたいという連絡が来ることになっています。区とし

では今、コズミックセンターとスポーツセンターの2つをエントリーしているところです。オリンピック、パラリンピックの大会は1ヶ月くらい行われますが、それで終わりということではなく、ボランティアをした、試合や練習を見た、選手と触れ合ったなどという思い出を区民の中に残していきたい。そういった思い出というのはその人の人生の中でずっと続いていきますので、この1ヶ月くらいのイベントが80年、その位の期間長持ちする、そういう大会になるように様々な仕掛けをしていきたいと思っています。

西川 オリンピックというのは単にスポーツの祭典ということだけではなくて、外国との文化交流ということも含むと思うのですが、その点について新宿区はどのように考えていますでしょうか。

吉住 私の諮問機関として文化芸術振興会議という組織がございまして、西川先生と同じく新宿区の名誉区民である高階秀爾先生に会長を務めて頂いているのですが、そこで文化芸能の振興に関する意見というのが、第一期からスタートして今第三期の提出を頂いたところです。その中で今回は東京2020オリンピック、パラリンピックの際の文化プログラムを新宿の中でいかに展開していくかということについての提言を頂いています。その提言に基づいて私どもも文化交流、文化プログラムの展開をしていきたいと考えています。その中で新宿区内の伝統芸能のいわゆる無形文化財の保持者の方、日本舞踊では西川先生もそうでいらっしゃるんですが、茶道華道にしましても遠州流宗家が本部道場をお持ちになっていらっしゃる、裏千家の東京本部がございまして、文化資源がたくさんございます。そうしたものをお客様に提供する仕掛けをして、それをきっかけに今後まちの中にどう広げていくかという所

に着目をして政策作りをしていきたいと考えております。例えば、新宿区は10の地区に分けて特別出張所と住民が活動する地域センターがセットになった複合施設があります。そういった施設はそれぞれ茶室などがついていますので、そういったところで体験をしてもらうとか、今は年に1回



センター祭りで近所の茶道の先生に御披露して頂いたり、あるいは小学生中学生の茶道部の子供達にお茶を立てて頂いたりしています。その道の一流の方にいろいろご指導いただける機会を作ったりといった取り組みが出来れば大変喜ばしいと考えております。西川先生には毎年子供達への文化体験プログラムで大変ご協力頂いていまして、子供達にとって地元にお住まいの人間国宝の先生に直接教をこう、ということは一生ないことだと思います。ご協力お力添えを頂いて本当にありがとうございます。

西川 昨今、外国人の観光客の方が非常に多いと思うのですが、現在区としてどのような情報を発信していくのか、文化交流も含めてより多くの外国の方が新宿に来て頂けるように、何が必要となるのか、今どういうことをやっているのかをお聞かせいただければと思います。

吉住 まずインフラの整備についてですが、今、観光バスの駐車問題で課題になっていますので、観光バスを8台止められる

駐車場を自主的に整備することになって
います。今、観光バスが滞留して新しい
お客様が入ってこれないですとか、そこ
で生活している人達の通行の妨げになっ
てしまっている状態にあります。観光客の
多い時期、中国でいう国慶節ですとか年
の変わり目、そういった時期には沢山観
光客が来てバスがあふれますので、公共
機関が協力し合って停める場所を用意す
る取り組みが必要です。それからインバウ
ンドというのがしばらく叫ばれていたのだ
ですが、やはり言語対応、コミュニケーション
がとれないと、接客がなかなかスムーズ
にいかなくて、お客様が不快感に思っ
てしまう。そうするともう2度と来てくれな
くなりますので、そういうミスをしないよう
に、せっかく来てくださった方がある程度
の言葉は通じなくても、きちんとした対応
をしてまた来てくれるような環境を作らな
ければいけない、ということがあります。
例えば、伊勢丹さんですとか実際にお客
様を迎えている企業の協力を頂いて「おも
てなし大学」というのを作りまして、そこ
で事業者の皆さんが外国のお客様にどの
ように接客したら良いか、外国のお客様
を迎えるにあたって、どういうデコレーシ
ョンをしたら良いのか、どういうプレゼン
をしたら良いのか、どういうアピールをし
たら良いのかとか、そういう練習をする場
を作っています。また、中国だけではなく、
今イスラム系のムスリムの皆さんも増え
ていますので、民間の提案も頂きながら私
たちで民間の皆さんと一緒に作った観光
振興協会という組織で、マップ作りをし
ています。ムスリムの人を受け入れる場合、
飲食店ではハラール対応をしなければな
りません。浅草では、完全に対応してい
ますという所と、8割は大丈夫ですという
所と、半分くらいは対応していますという
所と、全く対応していませんという所、4
段階に分けて表記をしています。そういっ
たものを新宿の中で、どの段階で導入し

ていくかということと、ムスリムの皆さん
が来ている人数がどのくらいなのかという
分析を、民間の地元の事業者の皆さんと
目配りしているところです。

西川 新宿というまちに外国人だけでなく日本
人にも来て頂けるように、何か発信してい
ることはありますでしょうか。

吉住 今、若い方だけでなく、年配の方にも
比較的携帯電話やスマートフォン、タブ
レットを使っている方が増えています。紙
でも情報発信はしていますが、一番新し
い情報はインターネットから得られるもの
が多いので、新宿区や観光振興協会でも
SNS、ソーシャルネットワークサービス、
いわゆるフェイスブック、ツイッター、ライ
ンといわれる3大SNSを使って情報配信
をしています。外国語版も配信しておりま
すので日本人だけでなく外国の人も、常
に新しい新宿の観光情報を入手できる
という取り組みを一つ行っております。あ
とはやはり治安対策です。犯罪対策は警察
としっかり協力をしながらやらせていた
だいています。新宿区の管理職の職員もま
ちの皆さんと一緒にパトロールしている
んですよ。

西川 新宿区というのは外からお見えになる方
も多いですが、当然のことながら住民も
多い、ということで新宿区民の方に行っ
ている政策のうち、新宿区として特徴が
あるものがあれば教えていただければと
思います。

吉住 今はやはり待機児童問題がマスコミを
販わせています。私たちもしっかり取り
組んでいまして、昨年から今年にかけて、
待機児童は168人いたのが58人まで減っ
て、なおかつ2歳児以上の待機児童は0
という状態に4月1日現在でなりました。
また、私が心配しておりますのは、高齢

化対策で、今年新宿の区内にお住まいの100歳になられる方、170人いらっしゃいます。65歳以上の方が6万8千人です。人口33万ですので、5分の1は65歳以上で、相当伸びてきている状態です。全国的な自治体に関するアンケート調査や数字のデータで答えていくと、全国紙などでいろいろな評価を頂くのですが、高齢者の方の暮らしやすさでは全国3位です。介護施設のサービス、施設型のサービス、在宅支援のサービスなどもあるのですが、やはり介護を受けるより健康維持をしてもらう、自分で歩いたり、好きなものを召し上がれるほうが幸せな状態だと思いますので、特に今年からはお医者様をさらに職員として増員し、健康長寿、健康寿命を延ばすための秘策に特化してスタートしています。今、長寿日本一は長野県です。特徴の一つとして指導員を配置し食育に力を入れています。もう一つ、高齢者の方の就労率の高さがあります。それは農業などの第一次産業があるからということもあります。指導員の指導が人口が少ないからいきなりやすい、ということもあるのですが、その基本的な考え方ややり方について住民に周知をしていく、これまで健康維持に対して無関心だった人達を自己的にどんどん健康に関心を持ってもらうようにしています。新宿区でも健康維持について今年から強力に取り組んでおります。また介護が必要になった方を支えるパートナー、介護人材が不足しているということが全国的にいわれているのですが、新宿区では昨年いろいろな講習を受けていただいた150人の高齢者の方がシルバー人材センターに登録をして、在宅介護のお手伝いをするという役割を担って頂いております。来年以降またその講習を受けた人が増えてくると思います。高齢者の方も誰かを支えるという自分の心のほりと、またそれがちょっとした収入に繋がり、自分の趣味の方に少しお金が使えるです

とか、おいしいものを皆とバスで出かけて食べに行くとか、そういう楽しみがあるといろいろな良い影響が出るようになる。そんな仕掛けが今年からスタートしています。これからさらに長寿社会になっても不安になるというよりは、楽しく長寿社会を送ることができる、そういう新宿区の高齢化対策というものを今目指しているところです。

西川 特に文化ということにおいて新宿区の区民に対して何かやっていらっしゃいますか？我々が携わっている文化体験プログラムの他にも何かあればお聞きしたいのですが。

吉住 区内の小学校、中学校もそうなのですが、芸術・芸能等々を鑑賞するような教室を開いておりまして、その年々で、オーケストラの演奏を聴くときもあったり、演劇を観に行くときもあったり、伝統芸能を拝見するときもあったり、そういった機



会を区民に多く提供する取り組みを進めています。ただこれから先、伝統芸能を鑑賞する人が減ってくるとやはり担い手も減ってくるのではないかということは危機感を覚えます。新宿の場合は先生をはじめとした多くの伝統芸能の技能を保持されている、習熟されている方がいらっしゃいます。能楽堂もございまして、そういう意味ではいかにして体験していただくような機会をつくりそこでファンを増やして

いくかということについて、心を砕いていけないといけないと思っております。また、淀橋第三小学校の跡地に芸能花伝舎がございます。あちらも伝統芸能などを住民にサービスして下さってしまして、落語の会を地元の町会会館で開いて下さったり、年に何度か芸能花伝舎を舞台としていろいろな伝統芸能に接する機会を作って下さったりしていますので、これからもさらにご協力いただいて、いろいろ展開していきたいと思っております。

西川 区長の思い描くこれからの新宿、目指していることがあったらお聞かせいただければと思います。

吉住 新宿というまちは決して面積も広くないですし、山があるわけでもなければ海があるわけでもないという都市部です。その狭い範囲の中に33万人の人が住んでいまして、さらに新宿駅の乗降客数は一日で360万人。ギネスブックに載っている世界1の駅です。高田馬場も日本のベスト10に入る駅で大変な乗降客のいる駅です。それだけ大勢の人が集まっていますが、少し駅から離れると、木造の密集地域があったりする、本当に表と奥の方とで全く顔の違う、景色の違うまちです。このまちをこれからどうやって発展

させていくかということを考えると、やはり人間が生きていく中では娯楽があったりあるいは心の安らぎがあったり、でもあまり静かだと寂しいし、ひと気が欲しくなる。子育てしている人、障害を持っている人、高齢者の方もやはり交通機関がないと移動が不便になります。そうすると活動範囲が狭まって元気でいられなくなってしまいますので、そういったものをバランスよく盛り立てていくためには何が必要かというところで、今、新しいまちづくり長期計画というものを策定しています。そのまちづくり長期計画の最終目的というのは新宿区内のいろいろな拠点々々を賑やかにしていくことを考えております。今は新宿駅周辺だけが高層建築が立ち並んで発展しているのですが、住宅地と駅周辺のバランスを取りながら、例えば高田馬場をどうするとか、あるいは歩道が狭くて人があふれてしまっている大久保周辺をどうするのか、神楽坂や曙橋周辺はどういうまちづくりが相応しいのか、1つのまちが置き去りにならないように、今の環境を保ちつつ、尚且つどうやったら発展できるのか、まちの特徴に合わせた将来像を示すとともに、それを実現するための長期的な計画を策定しています。

西川 本日はありがとうございました。

吉住 健一氏 プロフィール



昭和47年4月22日、東京都新宿区生まれ。
平成8年3月、日本大学法学部卒業
平成15年5月、新宿区議会議員（2期）
平成21年7月、東京都議会議員（2期）
平成26年11月、新宿区長就任（1期目）

（趣味） スポーツ、神輿、餅つき、読書

第51回 講演会

「女優としての表現に
活かされている日本舞踊」
-芸能界のお楽しみトークも-

講師 名取裕子氏

日時 平成28年8月26日(金)

会場 東京信用金庫本店
8階ホール

名取：こんにちは名取裕子です。今日はお暑い中ありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

瑞扇：今日はいろいろとお話をお伺い出来ればと思っております。よろしくお願い致します。ご縁があってお稽古に通われるようになってから、名前を取るまでっていうのは大変なことですね。

名取：そうです。生まれたときから名取なのに(笑)。女優歴は今年で40年です。

瑞扇：女優さんを志したきっかけはどんなことでしたか？

名取：40年くらい前、ポーラ化粧品のTBSテレビ小説「おゆき」というドラマに抜擢されたことです。青山学院の1年生の時に「ミスサラダガールコンテスト」というカネボウ化粧品のコンテストに出たのがきっかけで、東宝に所属して「おゆき」のオーディションに受かり、デビューしました。

瑞扇：デビュー当時に日本舞踊を習ったことがあるそうですね。

名取：テレビ小説の出演が決まった時に、かつらをかぶったら立ったり座ったりも出来

なかったんで、とにかく着物を着てかつらをかぶって歩けるようになりますい、ということで日本舞踊の稽古をはじめました。

瑞扇：今女優さんとして日本舞踊の必要性をお感じになることはありますか？

名取：お嬢様とか奥様とかそういう役柄の時に、しぐさや物腰を品良く演じて下さいといわれることが多いのですが、簡単には出来なくて、やはりそこは日本舞踊の力を借りて、姿勢であったり指先一つの動きであったりを教えていただいてその役柄を作ったような気がします。映画の時は所作指導で先生がつきますが、本当に所作一つで男になったり女になったり、例えば今はお女郎さんに身を落としているけれども、元は良家の出だったとか、日本舞踊を知っていると、いろいろな表現が出来ると思います。

瑞扇：踊りだけじゃなくて長唄三味線はすごく達者でいらっしゃるんです。テレビドラマでも、ご自分でここは踊りをいれよう、ここはお三味線を入れようということが言えるんです。そこはすごいところだと思います。本当は女優さんには皆さん日本舞踊を習っていただければと思います。今なかなかお稽古をしている人が少ないので。

名取：そうですね。私が出たドラマでは、最初は着物が着られなかった女優さんに、「今着られなくても終わるまでに着物の似合う女優No.1になったら良いよね」って言ったら、彼女はとてもやる気のある前向きな女優さんで、毎回早くきて衣裳さんのところで練習していました。女優さんは身長の高い方も多いですが、皆さん綺麗に着こなすようになります。それはやはり着て努力するからだと思います。

瑞扇：歌舞伎の方ともずいぶん共演なさっていますよね。歌舞伎の役者さんと普通の男優さん、何人もお相手があったと思いますけど何か違いはありますか？

名取：舞台か映像かでも違うと思いますが、片岡仁左衛門さんはドラマの時とお芝居の時のセリフは全然違うと思いました。この間再放送で40年くらい前の半七捕物帳を観ました。今の菊五郎さんが半七親分で私がお仙ちゃん、私のお父さん役が先代の幸四郎さんでした。それを観たらやはり歌舞伎の方は映像の中でも、ものすごく動きが綺麗で、ただ走るのでも頭がぶれないんですね、頭の高さが一定で走れる。私も最初にかつらをかぶって歩いたときは、頭を真っすぐにして並行に歩くことが出来なかったです。腰が入ってひとつ決まってすーっと歩くということが出来ない。だから本当に歌舞伎座制作の時代劇は歌舞伎の方がたくさん出てらして、立ち回りでも十手捌きでも動きのひとつひとつが、とても美しかったです。

瑞扇：ずいぶん贅沢な番組でしたね。私は五社監督の映画「吉原炎上」が大好きなのですが、今ああいう監督さんいないですね。あれは素晴らしかったです。

名取：ありがとうございます。あの映画は真夏のシーンを2月に撮っているんですけど、麻の襦袢に麻の着物で裸足でやるわけです。川に入るシーンでは凍る直前のすごく冷たい水で、足も痛いを通り越してしびれてしまうんですね。そんな寒い中で眉毛は全部剃れ、下着は付けちゃいけないっていわれました。ものすごくリアルにやらなきゃいけないということで。それで花魁の恰好で

走るシーンをいきなり撮ったら、首が凍っていたみたいで側頭骨がずれて動けなくなってしまって、かつらが4〜5キロあるんですね、衣裳は30キロ以上もあるので、走ったらクキっとなって、1週間撮影中止になって、鍼に2年以上通うことになってしまいました。

瑞扇：今まで失敗談とかありますか？

名取：そうですね。初めての主演映画で「序の舞」というのがあったんです。本当に初めてで右も左もわからずに京都に行きました。映画の初日に雨のシーンがあって、雨を消防車で降らせるんです、だから雨の量が違うんですね。消防車でずぶぬれになって1日そのままではいなければいけない。だけど寒いとか痛いとかいうと、根性ないとか言われてしまってダメなんです。それでだまって我慢していたら、膀胱炎になってしまいました。あと最後の海辺のシーンで雪が降っていたんですが、私が隠して入れていたホカロンが落ちてNGになったこともありました(笑)。でも本当にそんなことをしながらも映画を撮って、1〜2ヶ月同じ釜の飯を食べると、監督の名前で中島組とても仲間意識が出てきました。

瑞扇：それは本当に特殊な意識ですよ。ですから昨今とても仲良くされていた俳優さんが何人も亡くなられましたよね。どんなにお寂しかったかと思うけれども、一緒に作ってきた人がふっといなくなる悲しさというのは格別ですね。ただお友達というのではないですからね。

名取：そうですね。一緒にものを作るために前に向かって歩いていた仲間が流れ弾に当たって倒れたような、人生って「落とし穴」とか「流れ弾」とか病気であったり事故であったり思いもかけないことがあって、最近では天変地異もありますし、50年に一度くらいの災害が毎年やってくるような時代になってしまいました。だからそんないろんなことがあっても揺らがないう心根、そういう信念みたいなものをもっていないと、ひとつひとつの瑣末なことで足元をすくわれているような暇はないのかな、やはりやりたいことをど

んどんやって、になりたい自分にどんだんっていかないと、時間がない、もったいないです。

瑞扇：あとやはり出来るときに出来る人がやらなくちゃいけない事って沢山あると思うんですけど、東日本の震災の時、タオルなどを送られたり寄付をしたりしていらっしやるでしょ。やはりそういう出来ることをやるというのはすごく大事で、だけど自分にも何かあった時には、強い心と肉体を持つという。

名取：そうですね。なかなか難しいとは思いますが、でも必ずそういうことは誰にでも起こるんだということは思っていないと。いつまでも同じ時間軸では進まないの。親が亡くなったり、時間と共に、病気になる方がいたり、自分もそうなったり、いろいろなことが変わっていきますよね、だからこれで大丈夫ということはなくて、人生いろんなことがあって当たり前って思っていないといけませんね。

瑞扇：例えばドラマや劇中の踊りは長くて3分、舞台もそうです。その短い時間で上手に見せるため、そこで芽が出るためにこの下はすごい根がはっているのよ。見せるためにたくさんの努力をしなくてはいけないって良くおっしゃいますよね。

名取：舞台に出てくることは氷山の一角。芸事はなんでもそうですね。何かを出来るようになるのには、その何十倍、何百倍もの努力があって、その発表の場ではほんの

ちょっとしか見せられない。だからすごく努力していないとそこには現れないと思うんです。



瑞扇：これからいろいろな作品をご覧ください。たくさんあると思います。そういう時に今日のことを思い出して、こんなことなんだって思うのも面白いかもしれません。今日申し上げたかったのは、大変な努力家でその努力がないとトップランナーではいられない、ということです。私も表現者として教わるのがすごく多いのですが、それは素直に頂いて、後輩でも良いものを持っている人がいたら素直に聞いて自分のものにした方が得だなんて常々思います。

また良い作品、お芝居でも踊りでも発表されるときには、是非皆さんご覧になってください。

名取：今日は本当に短い時間でしたが、おしゃべりに付き合っていて、ありがとうございました。

瑞扇：今日はつたない司会で申し訳ございませんでした。ご清聴感謝いたします。ありがとうございました。

名取 裕子氏 プロフィール

1957年 8月18日生まれ
1980年 青山学院大学文学部日本文学学科卒業
1976年 「カネボウ・サラダガール」コンテストで準優勝
1977年 TBSテレビ小説「おゆき」にて本格デビュー

映画「序の舞」「吉原炎上」「櫂」「彩河」「時代屋の女房2」など多数出演
TVドラマ 人気シリーズに「法医学教室の事件ファイル」は現在 42作目(平成 28年 12月現在)
「京都地検の女」はシリーズ9
CM現在契約中
「サロンドプロ」ダリヤ株式会社
「栄潤」株式会社エバーライフ

隅田川物の系譜④

東京大学文学部 教授
古井戸 秀夫

説経節の浄るりでも『隅田川(梅若)』は人氣曲になりました。『三莊大夫』『刈萱』『信田妻』『愛護若』とともに五説経のひとつに数えられています。どの曲も親と離れた子供たちの哀れな境遇を歌い上げる曲ばかりでした。「ここに哀れをとどめしは」で語りはじめ「流涕こがれ泣き給う」と語る、説経節に相応しい題材だったのでしょうか。同様に「泣き節」と呼ばれた文弥節、「憂い節」の角太夫節でも好んで語られる物語でした。眼目となったのは隅田川の渡し守が語る梅若丸の最期。元の謡曲と異なるのは、梅若丸の一周忌を弔う大念仏の人々に気付くのが旅人ではなく、母親になったことでした。向う河岸に着いて他の人々が立ち去っても、梅若丸の母は舟から下りることができませんでした。「船端にひれ伏して、泣くよりほかの事はなし」と語られるのでした。舟の内に残って梅若丸の最期を確認した母の姿は「消え入るように泣き給う」と描写されています。

説経節は操りの人形芝居だけではなく、江戸の歌舞伎にも取り込まれて人気を博しました。森田座の座元、二代目坂東又九郎も説経節の名手で二度、渡し守の語りを語っています。はじめは三升屋兵庫こと元祖團十郎作の『成田山分身不動』。ほんものの『隅田川』ではなく「小町物」に潤色された「隅田川物」の語りでした。小町に恋慕のあまり蟬螂(かまきり)にまでなってしまった黒主を憐れむ、年老いた父親の役でした。我が子のために身を犠牲して小町に訴えても、鳴ることのない「綾の鼓」で弄ばれ、水底に身を投げて死んでしまいました。ここでは謡曲の『綾の鼓』を脚色した浄るりの所作事が見どころになりました。又九郎は歌って踊れる役者だったのです。「隅田川物」の語りの場面となったのは琵琶湖でした。山田から矢橋へ渡る渡し舟の若き船頭となっ

て現れた黒主の父の亡霊は、我が子の前で「去年卯月二十二日・・・なんぼう傷わしき物語でござる」と自らの最期を語り、幽霊の本性を顕わすのでした。絵入狂言本のト書きには、その部分に「又九郎説経勘太郎」と注記されていました。黒主の女房に扮した若女形の松本勘太郎と掛け合いの浄るりだったのです。

評判が良かったのでしょうか、二年後の『早咲隅田川』では本物の「隅田川」の語りになりました。ここでも又九郎の役は色に耽って勘当され、煙草売りにまで成り下がった、侍の老父でした。主君の身替りに娘を殺す愁嘆の浄るり、それに続く物狂いの所作事の末に殺されてしまいます。その亡霊が隅田川の船頭になって現れるのでした。年老いた船頭が伴っているのも、梅若丸の幽霊でした。同船していたのは梅若丸の父と母。その前で舟長は「去年三月十五日、しかも今日に当たり」と梅若丸の最期を語るのです。「親子は一世」と言ってこの世限りの関係。それ故に幽霊となった梅若丸の姿を母と父は見ることができないという悲劇でした。この語りも説経節の浄るりだったのでしょうか。掛け合いの相手となったのは梅若丸の母に扮した女形でした。

河東節の『隅田川舟の内』も一中節との掛け合いの浄るりでした。江戸太夫の河東が京下りの狂女を語り、京下りの三中が江戸の渡し守を語りました。浄るりは上下二段で、「頃は三月十五日、やしかも今日が命日」ではじまる「舟の内」の語りも二段に分かれています。その分話が膨らんで、上の巻には幼き者をかどわかしてきた人商人の酷い仕内、下の巻には所の人達が出て来て介抱する様子が増補されています。渡し守のその語り口には、叩かれた疵口を「判じ物」にして「早(ひでり)の桜、色褪せて」とか、「一粒(いちりゅう) つんで多田の薬師の氣付」というような軽口も含まれ

ていました。幼き者の名を聞かれた渡し守が「兄の名は、はアたしか梅」と答えようとする
と、母の河東が「若丸とは申さずや」と語り継ぐ、掛け合いの浄りの面白さも生まれました。そのような面白さが「流涕こがれ泣き給う」と嘆く母の悲しみを優しく包み込むことになるのです。「舟の内」には渡し守と母の二人きり、この設定ものの隅田川物に影響を与えることになりました。

最後に長唄の『馴初舟の内』の話をしましょう。曾我狂言として脚色されたもので、渡し守は小林の朝比奈。舟に乗り込むのは曾我の二の宮と工藤犬坊丸。敵同士の二人を朝比奈が取り持つ、という内容でした。表向きには鎌倉の瀬戸明神とあるものの、実際は隅田川の三囲神社。二の宮は青日傘を差し、犬坊丸は梅の枝の入った手桶を下げ、相合傘で梅若塚に参詣する途中なのでしょう、この二人を謡曲『隅田川』の狂女と旅人に見立てたものでした。

隅田川の渡し舟が途中から吉原通いの猪牙舟になり、花魁道中を見せたのでしょうか。遊びの気分満ち溢れているところが「天明振り」の特色でした。肝心の愁嘆の語りはなく、その代わりが二人の馴初めの「クドキ」でした。浄りの掛け合いを真似たものなのでしょう、立唄が「君と主とのその恋仲は、岩より」と歌うと二枚目が「石より堅い誓言、誓紙」と応えました。このように長唄の掛け合いが流行した時代でもありました。初々しい馴初めの初恋は、曾我と工藤、敵同士の家ゆえに悲しい結末を迎えることになります。そこには義太夫狂言の『妹背山婦女庭訓』の「山の段」がはめ込まれていました。歌舞伎のロミオとジュリエットの物語でした。



〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-3-14
ツカモト堀留ビル6階

フリーダイヤル 0120-5290-58
ごふくわ いづつや

五耀會の舞踊家によるインドでのワークショップ事業

12月5日から12日まで国際交流基金ニューデリー日本文化センター主催でインドでワークショップを行いました。インドの楽器（シタール、タブラ）と日本舞踊のコラボレーション作業を行い、最終日に発表を行うという実験的な企画で、渡航したのは五耀會の西川箕乃助氏、花柳寿楽氏、花柳基氏、藤間蘭黄氏、山村友五郎氏5名でした。

インド音楽独特の情緒的な旋律を奏でるシタールは「羽衣」を、リズムを刻むタブラは「三番叟」を題材にしました。日本側はインド楽器の情報は何もなく、インド側は日本舞踊について何も知らない、という状況からのスタートでしたので、予め映像や音源をやり取りし互いのイメージを作っておき、現地にてコラボレーション作業をする、という進め方になりました。

12月5日夕刻。インドデリーに到着。この日は到着が夜という事もあり、食事をとり解散。

12月6日。この日からワークショップ作業が開始されました。場所は独立行政法人国際交流基金ニューデリー日本文化センター。宿泊しているホテルからマイクロバスに乗り30分程で会場に到着。その後着替えをすませ、インド人演奏家2人とのレクチャーデモンストレーションを行いました。最初は日本舞踊家が身体の動きの説明、扇子の表現、解説を行い5人揃って「河」の上演。その後インド人演奏家達による楽器、演奏の説明がありました。シタールもタブラも即興が基本である事、シタールは旋律そのものに意味がある事（朝を表現する旋律等）、タブラは数百の拍子がある事等の説明を受けました。午後に入りコラボレーション作業が開始されました。西川箕乃助氏、花柳基氏、山村友五郎氏の3名がタブラの演奏に合わせ「三番叟」の振りを確認、通常の日本音楽、西洋音楽とも違うインド独特のリズムに踊りを合わせるのに苦労しているように見受けられました。一方、花柳寿楽氏、藤間蘭黄氏の2人はシタール演奏家の奏でる旋律と共に「羽衣」の振付を

行いました。こちらはストーリーがあるためそのストーリーを説明、描写しつつ演奏に合わせていきました。

12月7日。この日も前日からの作業を引き続き行いました。インド人演奏家達も、コラボレーション作業という事を良く理解しているようで、舞踊家の様々な要望に応え発表に向けてより精度を高めていきました。そして夕方には2作品共完成しました。

12月8日。午後からカタックダンスとのコラボレーション作業でした。シタール、タブラ演奏家達も加わり、朝日が昇る様子から始まり様々な自然描写をカタックダンスの人達と日本舞踊家で表現をしました。この日の作業では互いの舞踊を理解するまでに思いの外時間がかかり、少々心配しましたが無事に作業を終える事ができました。

12月9日。この日から本番で使用する会場でのコラボレーション作業になりました。会場名はChinmaya Missionという定員350名程度の会場です。この日は上演する全ての演目を区切りながらリハーサルを行いました。会場のスタッフへのオーダーや舞台のセッティングの打ち合わせをした後リハーサルに臨み、最後にカタックダンスとのコラボレーション作業の詰めを行い終了しました。

12月10日。いよいよ本番の日です。15時より前日の打ち合わせの確認をし、16時から本番通りのリハーサルを行い、そして19時に本番の幕が上がりました。日本舞踊の披露、カタックダンスとのコラボ作品、「羽衣」、「三番叟」の順に上演しました。ダンス同士のコラボも本番では見応えのある小作品になっていましたし、「羽衣」「三番叟」共に日本舞踊の持つ繊細さとダイナミックさの両方が、シタールやタブラの演奏と上手く融合していました。観客の方も在留日本人の方はもちろん現地の方も多く見受けられ、ここが見所である、と思った箇所で大きな拍手が起こる等、内容を理解しているように感じました。最後のカー

テンコールまで客席は盛り上がり、大盛会の裡に終えることが出来ました。

インド人演奏家の反応、お客様の反応、様々な事を鑑みて、今回の実験的事業は成功だったと実感しています。発表会のあと、“この事業をぜひとも継続したい”と舞踊家、演奏家、

スタッフ、全ての方々の思いが一致していたことがその証拠と言えるでしょう。

当財団としても来年更に発展した形で、再びインドにてコラボレーションを主体とする事業を行いたいと熱望しています。



カタックダンスとのコラボ

©One frame story



三番叟

©One frame story



羽衣

©One frame story



カーテンコール

©One frame story

特別会員 ご芳名

日本舞踊振興財団では、特別賛助会員制度を設け、下記の方々にご支援を
いただいております。是非ご参加をお願い申し上げます。

◎会費 1口 10万円(1年間)
◎特典 会報のご送付
会報・公演プログラム等にご芳名掲載
財団主催イベントにご招待

飯 田 侃	竹 内 小 道 具 (演劇舞踊小道具店)
飯 田 君 子	東 京 信 用 金 庫 (理事長 半澤進)
飯 田 信 子 (飯田不動産 代表)	東 信 企 業 (株) (代表取締役 金澤克夫)
市田(株)井筒工芸ディビジョン	西 川 井 扇
(有) かつら大阪屋 (代表取締役 長坂誠一郎)	(株) 西 菱
金井大道具株式会社 (代表取締役 金井勇一郎)	NPO 法人日本伝統芸能振興会 (会長 石田寛人)
歌 舞 伎 座 舞 台 (株)	NPO 法人日本文化研究所 (理事長 木村知躬)
(有) ギャラリー竹柳堂 (代表取締役 藤澤繁)	(株) ビデオフォトサイトウ (代表取締役 斉藤政雄)
向 陽 開 発 (株) (代表取締役 鈴木甫沙子)	報 知 新 聞 社 (代表取締役 早川正)
松 竹 衣 裳 (株) (代表取締役 酒井誠一)	(株) ホテルオークラ東京 (代表取締役社長支配人 清原當博)
セガサミーホールディングス(株) (代表取締役会長兼社長 里見治)	藪 本 俊 一 (株) 古美術藪本 (代表取締役)
関 根 愛 子	山 本 化 学 工 業 (株) (代表取締役 山本富造)
(株) 瀧 川 峰 晴 堂 (代表取締役 瀧川明行)	(株) 吉 岡 (代表取締役 清水喜重郎)

◆財団の趣旨にご賛同いただける方は財団事務局までご連絡ください。特別会員について
ご説明いたします。その上でご希望の方には申し込み書類をお送りさせていただきます。

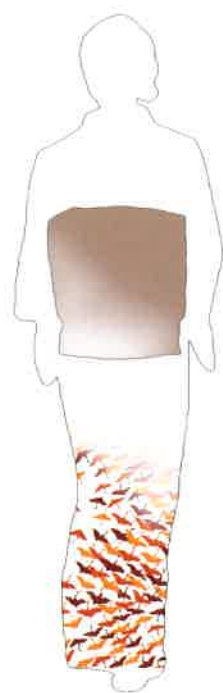
財団事務局 TEL 03-3354-5496

NBF活動報告

- ◆ 新宿区「こども文化体験プログラム」ー日本舞踊ー
日 時：平成 28 年 8 月 3 日(水)～5 日(金)
会 場：新宿四谷地域センター多目的ホール
内 容：新宿区主催の子供達の体験教室
- ◆ 第 51 回講演会
日 時：平成 28 年 8 月 26 日(金)
会 場：東京信用金庫本店 8F ホール
演 題：「女優としての表現に活かされている日本舞踊」
ー芸能界のお楽しみトークもー
講 師：名取裕子
- ◆ 新宿区日本舞踊こども教室
日 時：平成 28 年 10 月 2 日(日)
ー平成 29 年 1 月 15 日(日)
会 場：新宿区四谷地域センター多目的ホール
内 容：文化体験プログラムを更に発展させ、
日本舞踊の基本を曲にあわせて踊る。
最終日に発表会を行う。
- ◆ 五耀會の舞踊家によるインドでのワークショップ事業
日 時：平成 28 年 12 月 5 日(月)～12 日(月)
場 所：ニューデリー (インド)
主 催：独立行政法人国際交流基金ニューデリー日本文化センター
内 容：五耀會の舞踊家達とインド人演奏家によるコラボ
レーション活動。最終日に発表会を行った。
- ◆ 宇都宮市日本舞踊鑑賞教室
日 時：平成 28 年 12 月 7 日(水)
会 場：栃木県総合文化センター
出 演：花柳楽人、藤間蘭翔
演 目：「操り三番叟」「手習子」
内 容：宇都宮市在住小学生へのレクチャーデモン
ストレーション公演
- ◆ 中学部Ⅱ学期鑑賞行事
主 催：東洋英和女学院
日 時：平成 28 年 12 月 7 日(水)
会 場：新マーガレットグレイク記念講堂
出 演：西川扇藏、西川扇衛仁
司 会：西川祐子
内 容：東洋英和女学院主催によるレクチャー
デモンストレーション公演

NBF行事予定

- ◆ 幼稚園おどり教室
日 時：平成 29 年 2 月 6 日(月)
会 場：東洋英和幼稚園
- ◆ 仕舞・狂言教室合同発表会
日 時：平成 29 年 3 月 18 日(土)
会 場：杉並能楽堂
- ◆ 宇都宮市日本舞踊鑑賞教室
日 時：平成 29 年 5 月 22 日(月)
会 場：栃木県宇都宮市



公益財団法人日本舞踊振興財団 「NBF」 No.51

発 行 公益財団法人日本舞踊振興財団
〒162-0065 東京都新宿区住吉町
10-8 片桐ビル 301
印 刷 株式会社ディエムピー
発行日 平成 29 年 1 月

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年夏にはリオ
オデジャネイロオリンピックが終わりいよいよ東京オ
リンピックへの機運が高まっています。当財団でも昨
年 12 月に久しぶりに海外でのワークショップを行いま
した。今後も国内での日本舞踊の普及発展はもとよ
り、海外との文化交流にも積極的に動いていきたい
と思っています。本年もよろしくお願い申し上げます。



公益財団法人 日本舞踊振興財団

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 10-8 片桐ビル 301

TEL・FAX : 03-3354-5496

<http://www.nihonbuyo.or.jp>

E-mail: office@nihonbuyo.or.jp